

環境人材育成プログラム開発・実証委員会（第2回）議事録

日時：平成22年1月26日（火）18時30分～20時

場所：岩手大学 事務局2階 第一会議室

出席者：玉真之介（岩手大学理事・副学長、環境人材育成プログラム開発・実証委員会委員長、NS：CSR/環境人材育成研究会幹事、岩手県幼小中高大専 ESD 円卓会議幹事）、大塚尚寛（岩手大学副学長・環境マネジメント推進室長、INS：CSR/環境人材育成研究会会長）、牧陽之助（岩手大学人文社会科学部部長・環境人材育成WG代表、INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）、後藤尚人（岩手大学人文社会科学部教授・いわて高等教育コンソーシアム幹事）、田中吉兵衛（岩手大学教員養成機構教授、岩手県幼小中高大専 ESD 円卓会議幹事）、山本健（岩手県立大学講師・INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）、菊田哲（岩手県中小企業家同友会事務局長・INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）、藤原敏代（リコー東北株式会社岩手支社環境管理責任者、INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）、成田公哉（岩手県環境生活部課長、INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）、平井孝典（岩手県環境生活部課長、INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）、渡辺彰子（NPO 環境パートナーシップいわて副代表）、長岡美和子（NPO ASIA Environment Alliance、INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）

欠席者：なし

【配付資料】

1. 今年度の主な事業と進捗状況について
2. 岩手大学の環境マネジメント実務の実習プログラム開発
3. 「環境管理実務士（仮称）」資格要件要綱案
4. いわて環境フォーラム「環境報告書からはじめよう！」
5. 来年度の主な事業について
6. 平成22年度予算案
7. 平成21年度報告書目次
8. 環境力を有するT字型人材育成プログラム構築事業ワーキンググループ会合
9. 環境省主催「環境人材育成プログラム委員会（環境人材育成大学全体会合）」について
10. 第3回HESDフォーラム報告
11. INS：CSR/環境人材育成研究会1周年記念シンポジウム
12. 2009年度EMS公開セミナーポスター
13. 岩手県中小企業の環境報告書アンケート調査集計結果

議題1 事業の進捗状況について

玉委員長より、配布資料1に基づき、今年度の環境人材育成事業の進捗状況について説明があった。また、配布資料2に基づき、大塚委員、オブザーバー参加の古川氏（岩手大学人文社会科学部准教授、INS：CSR/環境人材育成研究会幹事）から、岩手大学の環境マネジメント実務の実習プログラム開発の進捗状況について説明がなされた。この後、質疑及び意見交換を行い、事業の進捗状況について了承された。

議題2 「環境管理実務士（仮称）」の資格要件について

委員長より、配布資料3に基づき、「環境管理実務士（仮称）」資格要件要綱案の説明があった。

説明に対して、各委員から次のような質問や意見が出された。

- ・地域グリーン化支援のインターンシップとボランティアに参加した学生が作成する提言書の内容、公表や審査の方法、提出先、提出時期についての質問。
- ・限られた時間で提言書が作成できるか。
- ・インターンシップについて、経営者の思いや理念を聞きながら、学生が客観的な見方や分析し、提言の教示を期待している。それが社員への刺激にもなりえる。
- ・インターンシップを環境報告書のアフタープログラムと位置づけることも考えられる。
- ・テーマに応じたインターンシップの受け入れ方の違いについて念頭に置く必要がある。
- ・小・中学校の総合学習における環境教育のボランティアを実施することは可能であろう。そのためには、岩手大学の環境教育科目などで基礎的、実践的な環境力の養成が必要になる。
- ・盛岡駅西口複合施設「いわて県民情報交流センター」内の環境学習交流センターが、大学生と一般の人々

とのやり取りを通じた環境教育の場として活用することも課題である。

各委員からの質問や意見に対して、玉委員長、大塚委員から下記の説明がなされた。

- ・ インターンシップ・ボランティア活動の提言書作成は、学生の提案力育成が狙いである。
- ・ 学生のインターンシップ・ボランティア活動を今年の夏休みに実施し、後期に資格認定委員会で提言書を審査することを念頭に置いている。
- ・ 資格認定委員会の立ち上げを大学内部で検討することが必要である。

以上の質疑及び意見交換の後、提言書及び資格認定委員会についてさらに煮詰めていくことを前提に、資格要件要綱案を大筋で了承した。

議題3 環境人材育成フォーラムについて

玉委員長から、配布資料4に基づき、2010年3月に岩手県の環境報告書に関するフォーラムの開催が予定されていることが説明された。

各委員から、環境報告書作成に関する企業の実践事例を報告されることが望ましいとの意見が出された。

各委員の意見や要望を受けて、玉委員長、大塚委員が、改めてINS:CSR/環境人材育成研究会などの場で、フォーラムの開催日時などを検討することとなった。

また、玉委員長から、フォーラムの前に、第3回環境人材育成プログラム開発・実証委員会を開催する予定であることが伝えられた。

議題4 来年度の主な事業について

玉委員長から、配布資料5・6に基づき、来年度の事業予定が予算案とともに説明され、審議の結果、3月開催の次回委員会において最終的な確定を行う前提に大筋で了承された。

議題5 その他

玉委員長から、配布資料7に基づき、環境省に提出する平成21年度環境人材育成プログラム報告書の目次案が示された。

報告1 環境人材育成コンソーシアム主催「環境力を有するT字型人材育成プログラム構築事業ワーキンググループ会合」

玉委員長から、配布資料8に基づき、環境人材育成コンソーシアムが進める「環境力を有するT字型人材育成プログラム構築事業」の概要について説明があった。

報告2 環境省主催「環境人材育成プログラム委員会（環境人材育成大学全体会合）」

玉委員長から、配布資料9に基づき、2009年10月に開催された環境人材育成大学全体会合について報告がなされた。

報告3 HESD フォーラム2009 in 岡山

オブザーバー参加の中島清隆氏（岩手大学環境人材育成プロジェクト推進教員、INS:CSR/環境人材育成研究会事務局）から、配布資料10に基づき、2009年11月に行われたHESDフォーラム2009 in 岡山について報告があった。

報告4 INS:CSR/環境人材育成研究会1周年記念シンポジウム

玉委員長から、配布資料11に基づき、2009年11月に開催されたINS:CSR/環境人材育成研究会1周年記念シンポジウムについて報告された。

報告5 2009年度EMS公開セミナー（12/7）

玉委員長から、配布資料12に基づき、2009年12月に開催された2009年度EMS公開セミナーについて報告があった。

報告6 その他

玉委員長、中島氏から、配布資料13に基づき、岩手県中小企業家同友会加盟企業を対象とした環境報告書作成に関するアンケート調査の集計結果について報告がなされた。